



～韓国医療交流会～



参加者：副院長 湯朝友基

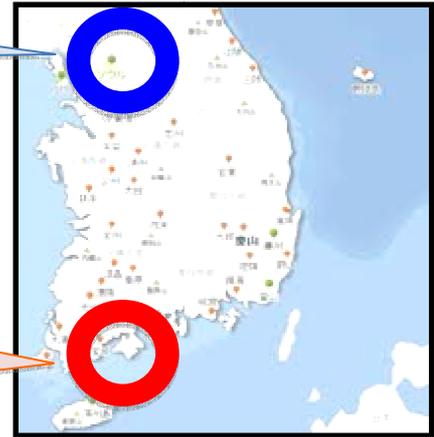
看護師 釘嶋美奈、松尾伊津子

理学療法士 渡辺裕介、平石大樹

平成 24 年 11 月 18 日～11 月 21 日の 4 日間、医療交流を目的とし、韓国へ行ってきました。

・ Wellton Hospital(ソウル)

・ Wilson Leprosy Center &
Rehabilitation Hospital(麗水)



【日程】

1 日目 移動日

2 日目 麗水：Wilson Leprosy Center & Rehabilitation Hospital にて医療交流

3 日目 ソウル：Wellton Hospital にて医療交流

4 日目 ソウル：Wellton Hospital のソン医師と討論

【Wilson Leprosy Center & Rehabilitation Hospital (WLC)】



1967年よりハンセン病治療病院として開院

2009年には100周年を迎えた歴史ある病院

院長のキム医師は、韓国で人工膝関節手術が有名な医師の一人



キム医師と湯朝副院長



キム医師と一緒に

※渡辺理学療法士は、別室で研修中

～湯朝副院長によるプレゼンテーション～





キム医師を始め、WLC に所属する医師達の前で、当院の紹介を踏まえながら
プレゼンテーションを行い、医療に関する意見交換を行いました。

ここでは、当院の施設設備に対する驚きの声もあがっており、自分達のおかれている環境が
世界レベルにあることを改めて実感しました。

～手術場～



手術室は全部で4部屋存在し、
壁の至る箇所にガラス張りの窓が
設置されていました。





湯朝副院長



釘嶋看護師長

医師、看護師は実際に手術に入り、
実践の中で手術に関する
意見交換を行いました。



松尾看護師

～リハビリテーション室～



リハビリテーション室では、理学療法士の渡辺と平石が午前と午後に別れ、それぞれ医療情報に関する意見交換を行いました。手術件数が比較的多いにも関わらず、意外にも理学療法士は全部で5名と少数であったため、基本的には集団でリハビリテーションを行う様でした。当院とは、異なったりハビリのスタイルをとっていたため、多くのディスカッションを行いました。

【Wellton Hospital】

医療ツーリズム(グローバルな医療展開)を取り込むべく、政府のプログラムにて運営が行われる施設
院長のソン医師は、韓国で人工関節手術を多く行っており、特に人工股関節の手術で有名

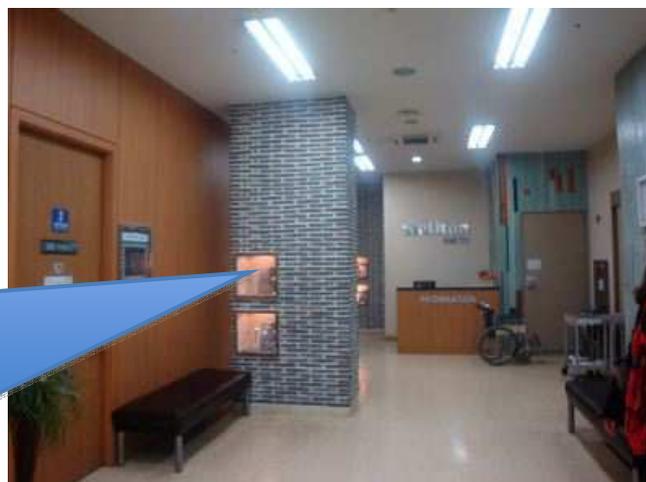


ソウルの街中にたたずむ病院



“For Happy Joint”

ソウル市内にあり、至る箇所に“For Happy Joint”というキャッチフレーズが掲示され印象に残ります。この病院は、人工関節手術のための医師訪問施設でもあり、来客者の写真が玄関口に数多く紹介されていました。



整形外科外来の各診察室前には、人工関節の模型が展示されており、特に人工関節に対する

専門性を感じました。ここは、当院とも似通った部分であり、少なからず似たようなコンセプトを持って医療に取り組んでいることがわかりました。

～湯朝副院長によるプレゼンテーション～



手術前には湯朝副院長が当院に関するプレゼンテーションを行いました。

ソン医師達は当院の人工膝関節症例数や反重力トレッドミルなどの話に関心を持たれており、

ここでも意見交換を行う場としては充実した時間を過ごすことができました。

～手術場～



手術室は、土地を有効利用できるということと、密閉空間であるため感染予防が出来るという理由で地下に造られていました。また、ソン医師は WLC のキム医師とは異なった手術哲学を持ち、それに伴って術式も異なっていました。

～リハビリテーション室～



6人の理学療法士が在中していました。大きく2つの部屋があり、入院患者さんへアプローチする際、午前と午後で部屋をわけてリハビリを行っていました。午前中は徒手療法を中心にリハビリテーションルームをメインとして使用し、午後にはもう一つのトレーニングルームを使用し、機器を積極的に使用しつつトレーニングを行っていました。また物理療法専用個室(カーテンによる仕切り)が15室存在し、患者さんへの配慮が感じられる部分でした。

～今回の医療交流を経て再認識したこと～

- ①エキスパートとしての自覚
- ②世界水準の医療サービス提供を
- ③仕事に対する誇り
- ④アピール力

① エキスパートとしての自覚

交流を行った2つ施設とも、自信が行っていることに対して責任をもっていました。自分達、看護師、理学療法士も自身の仕事に責任をもち、よりスキルアップすべきだと感じました。

② 世界水準の医療提供を

今回の交流で感じた事は、自分達の仕事内容や医療提供において劣っているとは思いませんでした。環境においては、当院の方が優れているとさえ感じました。そのため、設備においても、技術において医師だけでなく、自分達も高いレベルを求め続ける必要があると感じました。

③ 仕事に対する誇り

交流をして感じたのは、どちらの施設も、誇りをもって医療を提供しているということです。仕事において、医療提供もサービスも誇りをもって常に考えながら業務に取りかかるべきだと思います。

④ アピール力

自分達の施設や技術が劣っていないと感じた反面、自分達からアピール力のなさも感じました。これから、当施設の良さや自分達が経験して来た事や、行っていることをアピールしていきたいと思えます。

～感想～

【釘嶋】

今回 2 日間、2 つの病院で医療交流を行いました。両施設とも当院と同じく専門性をもっており、今まで築かれたものが形となり、現在のシステムが確立されてきたのだという事を、強く感じました。手術室には、医師とのテンポも抜群な看護師もおり、次々と器械が手渡されていました。器械出しだけでなく、洗練されたスタッフが集まっていることで手術の進行がスムーズに流れている印象を受けました。また、当院と同じ専門性を持ったプロフェッショナルの集まりがいることがとても刺激になり、もっと高い目標をもたなければならないこと実感し、自分達の医療がどのレベルにあるのか、見直す良い機会となりました。

それぞれのスタッフが仕事に対して熱意を併、取り組むこと。そのためには、自分の技術や知識を高める必要性があり、自分自身が努力していくこと。それが結果的に向上心につながることを再認識しました。

今回、このような機会を与えていただいた院長に、深く感謝しております。また、不在中は大変ご迷惑をおかけしました。ありがとうございました。

【松尾】

実際、海外の医師の手術をみて、当院とやり方は異なりますが、その手技について行けるスタッフに驚きました。ただ独りが凄いのではなく、グループでのレベルアップがなければ、評価されないと感じました。それぞれのスタッフが誇りを持って取り組んでいく必要があると思います。また、研修を通して、海外と同等かそれ以上医療サービス（手術手技や待合室のモニターなど患者への情報提供）が当院でも行えていることを再確認することが出来ました。もっと膝とスポーツに特化した医療を提供できるよう努力していきたいと思います。

【渡辺】

韓国の病院と医療交流を行って、また一つ視野が広がりました。人工関節手術のやり方、考え方も各施設で違い、リハビリテーションも異なりました。2 つの施設とも、独自のスタイルがあり、全く違う施設でした。2 つの施設と医療交流を行う中で、当院のあり方やスタイルを考え直す良い機会となりました。リハビリテーションを行う環境においては、当院の方が整っています。また、自分達が目指すリハビリが行えているか、自分がその領域に達しているのか、これからどうしていくべきなのか、さまざまなことを考えました。今回、交流を行った両施設ともやり方、考え方は異なりますが、目指すべき事は同じだと感じました。韓国という国を訪問し、パワーをもらいました。

彼らとは国は違いますが、良きライバルだと思います。これからも、精進していきたいと思います。

ありがとうございました。

【平石】

今回韓国ではトップレベルの医療技術をもつ2施設を訪問させていただきました。そこで出逢ったPTらと実際にディスカッションすることができ、そこで感じたことは、当院の設備に関して、世界基準のリハビリを提供していくためのベースが十分に整っていることを再認識し、これらを活かしつつまた日々の勉強の積み重ねていくことで、Dr.の名に負けないよう質の高い医療サービスを提供していかなければと感じました。ここで受けた良い刺激を今後の生活に活かし、自身をもっともっと高めていけるよう努めたいと思います。

今回、このような機会を与えていただいた院長に、深く感謝しております。また、不在中は大変ご迷惑をおかけしました。ありがとうございました。

